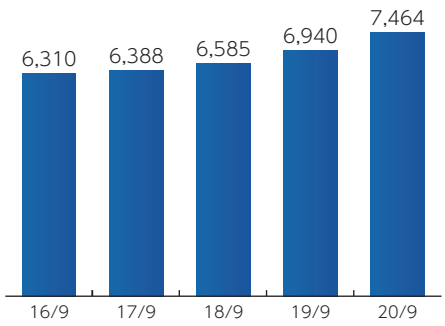
2020年度　中間決算ハイライト

預金

7,464億円

預金期末残高

（単位：億円）



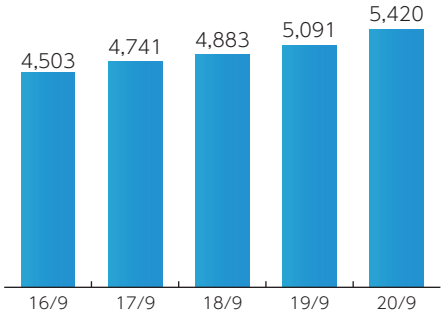
預金残高は、個人預金、法人預金および公金預金が増加したことから、前年同期比524億50百万円増加の7,464億94百万円となりました。

貸出金

5,420億円

貸出金期末残高

（単位：億円）



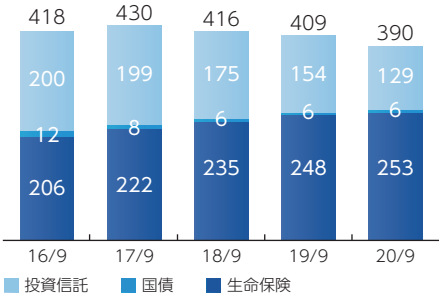
貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症関連融資制度への対応により事業性貸出が増加したことなどから、前年同期比328億78百万円増加の5,420億16百万円となりました。

預かり資産

390億円

預かり資産期末残高

（単位：億円）



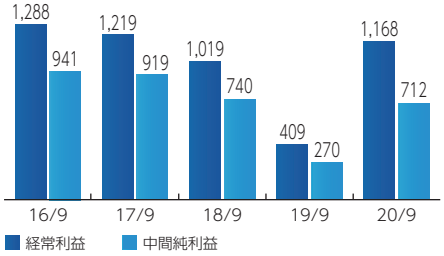
預かり資産残高は、生命保険および国債は増加しましたが、投資信託は減少しました。その結果、前年同期比19億15百万円減少の390億10百万円となりました。

経常利益　　中間純利益

11億円　　**7億円**

経常利益・中間純利益

（単位：百万円）



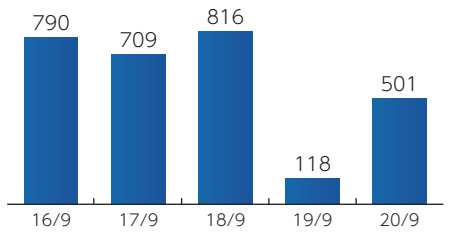
経常利益は、有価証券利息配当金は減少しましたが、貸出金利息や株式等売却益が増加したことなどから、前年同期比7億59百万円増加の11億68百万円となりました。中間純利益は、前年同期比4億42百万円増加の7億12百万円となりました。

コア業務純益

5億円

コア業務純益

（単位：百万円）



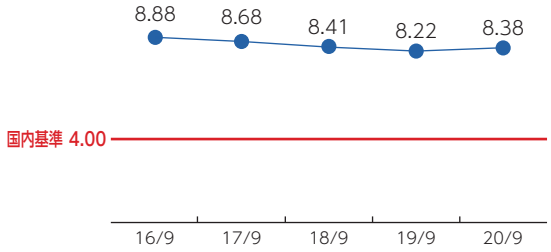
コア業務純益は、経費の減少などによって、前年同期比3億83百万円増加の5億1百万円となりました。

自己資本比率

8.38%

自己資本比率

（単位：%）



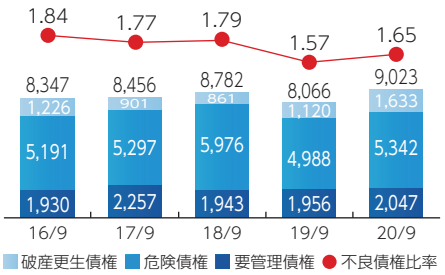
自己資本比率は、利益の積み上げと、セーフティーネット資金等の貸出対応を強化したことから前年同期比0.16ポイント上昇の8.38%となりました。国内基準の4%を上回っており、安定した経営基盤を確保しています。

不良債権比率

1.65%

不良債権比率

（単位：百万円・%）



不良債権額（金融再生法基準）は、前年同期比9億57百万円増加の90億23百万円、開示債権比率は前年同期比0.08ポイント上昇の1.65%となりました。

用語解説

■コア業務純益
預金や貸出金、為替業務などであげた利益（業務純益）から「一般貸倒引当金繰入額」や「国債等債券損益」など、一時的な要因を除いたものがコア業務純益となります。銀行の本来の業務から得られる利益を示すものです。

■自己資本比率
資産に対する自己資本の割合を示すもので、金融機関の財務内容の健全性を判断する重要な指標となっています。現在、当行のように海外に店舗を持たない銀行においては、その数値が4%以上であることが求められています。

■破産更生債権
破産、会社更生、再生手続き等の事由により、経営破綻した貸出先への債権及びこれらに準ずる債権です。

■危険債権
貸出先が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態等が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受け取りができない可能性がある債権です。

■要管理債権
3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権です。